

## 学 位 論 文 審 査 の 要 旨

		要 旨
学位申請者	木村 未和 【人間発達科学専攻 2013年度生】	
論文題目	消費組合刊行資料にみる「家庭」と「経済」の関係 —1920年代から1940年代を中心に—	<p>6月19日の代議員会で、木村未和博士論文審査会の設置が了承され、審査会が開始された。第一回審査会は、6月25日に開催された。まず、執筆者から本論文の概要について、本論文が日本において「家庭」概念が普及していく時代にあつて、「家庭」が「経済」とどのような関係にあるのかを、当時、広がりを持つようになってきた消費組合刊行資料を分析対象として、それらの中で、特に、女性と子どもに焦点を当てて分析するものであることが説明された。審査員からは、論文タイトルを論文全体のキーワードに即したものにすべきことが指摘されたほか、問題の所在や先行研究のレビューがまだ十分とは言えないこと、オリジナリティの明確化がなされていないこと、現代的な課題に対する示唆について書き込むことが必要であるとの指摘があり、また、文章の推敲の必要性も指摘された。</p> <p>この指摘を踏まえた改稿がなされ、第二回めの審査会は、7月30日に開催された。第二回審査会では、論文の題目の修正が提示された。第一回審査会での指摘された部分の改稿については、先行研究の加筆や問題の所在の修正など概ね修正されていると認められたが、論文のオリジナリティの明確化として、消費組合における「子ども」の分析により力点が置かれる必要があるのではないかと、この指摘がなされた。また、論文全体にあいまいな著述が見られていることや、終章の分析が不十分であるという指摘がなされた。以上の改稿が引き続き必要であるということとなり、第三回目審査会を開催することになった。</p> <p>第三回審査会は、8月30日に開催された。改稿に関しては、概ね了承され、若干の文章表現上の修正の必要性が指摘されたが、公開審査会の開催が了承された。</p> <p>9月5日に行われた公開審査会では、執筆者からの論文の概要の説明がなされ、参加者からの活発な質問が出された。公開審査会後の最終審査会では、論文の概要が適切に説明されていると評価され、また、質問に対しても丁寧かつ適切に回答を行なったとみなされた。</p> <p>以上のことから、審査委員全員の賛成によって、申請論文を、博士(社会科学)、Ph. D. in Sociology として合格とした。</p>
審査委員	(主 査) 教 授 小玉亮子	
	(副 査) 教 授 柴坂寿子	
	(副 査) 教 授 浜口順子	
	(審査委員) 准教授 斎藤悦子	
	(審査委員) 教 授 千田有紀 (武蔵大学)	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( 否 )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>②. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> </div> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	